

愛知登文会ニュース 第35号

令和5年11月1日発行

1 事業実施報告「新規登録文化財訪問」(2023度)

今年度からの新しい取組として、近年登録された登録有形文化財を会員の登録有形文化財の所有者が訪問し、所有者や登録に関わられた専門家の方にご案内いただくとともに意見交換を行う場を設けました。

第1回 三宅家住宅(尾張旭市)

後藤文俊氏が愛知県の近代和風建築(建造物等)の調査で訪問された際に、登録有形文化財に値すると思われる、登録を進められたのが登録のきっかけとのこと。登録に尽力された後藤氏にお話しいただくとともに、所有者の方に主屋の一部や音楽イベントに活用できるよう改修された蔵を案内いただきました。

意見交換では、いかに次の世代に継承していくかなど所有者の方が抱える悩みについても話し合うことができ、所有者同士の交流を深めることもできました。

開催日時	内容	訪問者
R5.6.6(火) 14:00~ 16:00	○後藤文俊氏(あいちヘリテージマネージャー)によるお話 ○建物見学(主屋・蔵・庭門及び塀) ○所有者の方との意見交換	7名 (事務局含む)



▲後藤氏のお話



▲音楽イベントに活用されている蔵2階



▲意見交換の様子

第2回 中村家住宅(豊川市)

主屋が登録されたのは、離れの新築を望月工務店に依頼されたのがきっかけとのこと。登録に尽力された望月昭氏に建物の特徴など案内いただくとともに、所有者の方にもお話しを伺いました。

さらに、登録文化財と寄り添う形で新築された離れについても設計者の望月成高氏にお話しを伺いました。登録された主屋を守っていきたいという息子さんの想いも伺うことができ、新旧の建物の魅力を味わう機会ともなりました。

開催日時	内容	訪問者
R5.6.20(火) 14:00~ 16:00	○望月昭氏(あいちヘリテージマネージャー)によるお話 ○建物見学(主屋) ○所有者の方との意見交換 ○離れ(新築建物)の見学	7名 (事務局含む)



▲望月昭氏のお話



▲意見交換の様子



▲離れ(左奥が主屋)

2 事業実施報告「ウィキペディア愛知登文会」(2023 度)

今年度からの新しい取組として、ウィキペディアを活用し登録文化財の情報発信を強化することとしました。題して「ウィキペディア愛知登文会」。まずは勉強会でウィキペディア編集の利点と注意事項について学び、それを踏まえてワークショップでは個別のウィキペディアページの作成や編集を行いました。

ウィキペディアは当事者でも出典を明記しないと記述することができません。メディア情報を集めておくこと、地道にホームページで情報を発信していくことが重要であることを学びました。また、使用する写真も撮影者の了解を得ていても他人が撮影した写真を使用することはできず、自らが撮影した写真をウィキメディアコモンズにアップする必要があります。情報の正確さや著作権に配慮するなど様々なルールが定められています。

今回、新たに作成した愛知登文会のページでは会員の登録文化財名称を記述しています。ウィキペディアページがあるものは青字で、ないものは赤字で表示されるようになっており、ウィキペディアページのない登録有形文化財が多数あることがわかります。この取組を通じて、愛知県内の登録有形文化財のウィキペディアページの充実が図られ、正確な情報発信に繋がるようにしていければと思います。

ウィキペディア編集・勉強会

講師の伊達氏のほかに 4 名のウィキペディアンの方にも参加いただき、まず基礎的な事項についてお話しいただいた後、試しに愛知登文会のページを分担して編集をしてみました。

最初は戸惑いがありましたが、実際に手を動かしてみると、要領がわかってきて一通りのページを作ることができました。



開催日時	内 容	参加者
R5.7.29(土) 14:00~ 16:00	① ウィキペディア編集の利点と注意事項 講師：伊達深雪氏（京都府立丹後緑風高等学校久美浜学舎） ② ウィキペディア編集体験（編集方法の基本事項） 愛知登文会ページ新規作成	18名 (事務局含む)

ワークショップ

3回のワークショップにも伊達氏の他 4 人のウィキペディアンの方に参加いただき、協力を得ながら編集作業を行いました。今回の取組で新たに 5 つのウィキペディアページができました。

開催日時	内 容（手がけたウィキペディア編集作業）	参加者
R5.8.24(木) 18:30~ 20:00	○愛知登文会ページ編集 ○大野宿鳳来館ページ編集 ○為三郎記念館ページ独立 ○愛知県の登録有形文化財一覧ページ編集（写真追加） ○川原田家住宅ページ新規作成（下書き）	14名 (事務局含む)
R5.9.6(水) 18:30~ 20:00	○前回の作業の続き ○全国登文会ページ新規作成 ○萬三の白モッコウバラページ新規作成	14名 (事務局含む)
R5.9.19(火) 18:30~ 20:00	○前回の作業の続き ○川原田家住宅ページ新規作成	14名 (事務局含む)



3 寄稿文

守り繋ぐ手段としての「知の共有」ウィキペディア (Wikipedia) の影響

伊達深雪

静岡県沼津市戸田に「松城家住宅」という重要文化財の邸宅がある。2020年春、修復工事中だったこの邸宅を見学し、ウィキペディアに項目を作成するイベントが開催された。それまでウェブ上にほとんど情報がなかった松城家住宅の名は、今、検索するとトップ画面にウィキペディアが表示される。今回、「ウィキペディア愛知登文会」で作成、加筆した各項目も同様だ。

デジタル技術による文化財情報の記録と利活用を推進する奈良文化財研究所（以後「奈文研」）は、参加者が自ら体験し調べたことをウィキペディアに執筆する取り組みは、社会教育の観点からも有意義であると注目する。愛知県内でも過去、複数の大学でウィキペディアに地域情報を発信するウィキペディアタウンを実施したことがある。

今年10月1日には、「ウィキペディア愛知登文会」に触発された大阪登文会の女性が、大阪府松原市で開催されたウィキペディアタウンに参加し、初編集で「阿保神社」を作成された。この事例は翌週には奈文研の研修会で話題になり、松原市はイベントで使用した発表スライドとレジュメを記録として奈文研の「全国遺跡報告総覧」に掲載する準備を進めている。研究者たちのネットワークは、全国各地の文化財の保存活動とそれに関わる人々に、情報の発信と共有が世間にもたらす様々な良い影響について考える機会を与えるだろう。

かつて、この愛知で初めて全国登文会シンポジウムが開催され、全国の登文会がネットワークを形成し連携していく方向性が示されたように、貴重な文化財を後世に繋いでいくひとつの手段としてのウィキペディア登文会もまた、ここから始まり、全国へと広がりつながっていくことを期待したい。



2020年3月 修復作業中の重要文化財「松城家住宅」を訪れ、市の職員の説明を聞くウィキペディア編集者たち



2023年10月1日、松原市で開催されたウィキペディアタウンの様子



AI時代に文化財情報を整備するWikipediaタウンの活動の意義

愛知工業大学情報科学部 講師 小栗真弥

ここ1,2年で急速に進化している生成AIによって様々なアプリやサービスが生まれているのはご存知のところかと思いますが、このようなシステムはインターネット上の様々な情報を学習に利用したり検索することで成り立っています。しかし登録文化財に関する情報はインターネット上にも十分には存在しないため、でたらめな情報しか出てこないのが現状です。試しに「小栗家住宅」についてChatGPTに聞いてみても間違った情報が提供されます。

このような事実を生成AIに問い合わせるのは良い使い方ではありませんが、それでも今の流れからすればWeb上に正しい情報を多く発信していくことが非常に重要です。しかも人間が閲覧するだけでなく、AIやプログラムが読むことも想定する必要があります。

今回の「Wikipediaタウン」というイベントは誰でも利用が可能なネット上の百科事典であるWikipediaに登録文化財情報を充実させようという取り組みです。もしかすると「Wikipediaなんて誰でも編集できて信用ならん!」と懐疑的に思われたかもしれませんが、そうではなく、多くの人と協力して、間違いがあれば正しい情報に修正することができ、不足する説明があれば加筆することができるプラットフォームと考えることができます。所有者や管理者、そして登文会が中心となり資料(書籍・新聞記事など)を持ち寄ることでネット上に存在しなかった情報を整理して世界に発信することができます。

今回の取り組みの成果である愛知登文会のページがGoogleの生成AIの検索結果に取り込まれている良い例を紹介します。



▲Googleの生成AIによる検索結果でWikipediaの内容を根拠に内容が生成されている例)

この取り組みは一度きりで終わりではなく、定期的に続けていくことが重要です。

所有者だけがWikipediaを編集するのは限界がありますから、今後は市民を巻き込んで文化財建物でWikipediaタウンイベントを開催するなど、無理なく楽しく文化財情報の発信に力を入れていくことが重要になっていくのではないかと思います。

4 事業実施報告「文化財魅力発信サポーター」(2023年度)

今年度からの新しい取組として、文化財魅力発信サポーターとして協力いただける方を増やすための講座を開催しました。まず座学として3つの点から学んだ後、名古屋市市政資料館の見学ツアーを実施、その様子を情報発信いただきました。

「参加できてよかった」「建物のこと、写真の撮り方、Instagramでの発信のこと、いろいろ知ることができてとても勉強になりました」「堅苦しくなく楽しく受けられました」との感想をいただき、13名の方にサポーターとして登録いただきました。あいたて博などの機会を通じて文化財の魅力を発信していただくこととしています。



▲座学の様子

R5.9.23(土)	内容	参加者
10:00~ 14:00 (休憩1時間)	午前の部：3名の講師によるお話&意見交換・経験交流 1) 建物の見方・魅力発見の方法 講師：村瀬良太氏(建築史家、あいたて博実行委員会委員長) 2) 写真撮影のコツ 講師：熊本仁志氏(冊子「あいちのたてももの協力カメラマン」) 3) Instagramによる情報発信 講師：井戸祐美子氏(一級建築士、いくいくみるInstagram担当) 午後の部：名古屋市市政資料館ツアー&情報発信	19名 (講師・事務局含む)

県内の登録文化財の事例紹介

vol.13

富田家住宅(岡崎市)

医療法人木南舎 富田病院 理事長・院長 富田 裕

古文書によると、戦国武将「柴田勝家」の子孫・旗本「柴田出雲守勝門」が1698年に知行所支配のため本宿村に陣屋を設け、陣屋代官職は、初代から富田家が代々世襲し、地域の勧農殖産に努めました。1815年に代官就任の5代目当主「富田群蔵常業」は、天保の大飢饉の際に灌漑池を造成するなど手腕を発揮、古典の研究、詠草の寄詠、村内子弟の教育等にも取り組み、1827年(文政十年)「木南舎」の愛称の本宿旧代官屋敷を上棟しました。

この建物は、桁行十間、梁間六間半、切妻造、平入、二階建、棧瓦葺で、屋根上部に煙出しを設け屋根背面を葺き下し、柱は面取角柱で居室部分の柱間に差鴨居を入れて軸部を固め、小屋組は登り梁として二階部分の居室空間を確保し、全体に木割が太く、江戸時代後期の格式ある住宅建築で近世の姿をよくとどめ、この地域における技術的・様式的な指標と、2017年に岡崎市より「歴史的風致形成建造物」に指定されました。

我が家は明治維新の際に代官職を離れ、1903年、11代目「富田丈次郎」が医院を開業、以降4代・120年地域医療に従事してまいりました。ちなみに、シンセサイザー奏者・音響作家の「富田勲」(小生の伯父)も多感な少年時代をこの家で過ごしました。

14代目の私は、2018年、約40年空き家で朽ち果てる寸前の古民家の再生を決意、宮大工さんらにより、築150年の土蔵と共に、イベントスペースを備えたイタリアンレストラン「ユギーノユーゴ」ならびに郷土史資料展示室として現代に蘇りました。

国の有形文化財に登録いただき、さらに愛知登文会総会にて表彰を受け、大変光栄に存じております。2年後には、当地から車で5分の所に、愛知県初の本格的アウトレットモールが開業します。どうぞ皆様、お気軽にお訪ねください。



代官屋敷と土蔵



代官屋敷正面



代官屋敷カウンター

編集後記

昨年度は文化庁の補助事業がなく、規模を縮小した活動となりましたが、今年度から新たに文化庁補助事業の採択を受けることができ、新規事業も開始しました。今回はその3つの取組を報告しています。

あいちのたてももの博覧会については、対象を指定・未指定文化財まで広げ、新たな実施体制のもとで多くの方に協力いただきながら、規模を拡大して開催中です。愛知県内にある多様な建物の魅力を多くの方に実感いただけるような場になればと思っています。ぜひ、ご参加ください。

愛知登文会ニュース 第35号

発行日：令和5年11月1日
 発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目6番15号先
 名古屋テレビ塔株式会社内
 TEL 052-971-8546 FAX 052-961-0561
 E-mail info@aichi-tobunkai.org
 HP http://www.aichi-tobunkai.org
 Facebook @aichi.tobunkai
 X(旧Twitter) @aichitobunkai
 Instagram aichitobunkai



LINE
(自動応答)